

# 令和2年度第1回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：令和2年7月8日（水） 午後1時30分～3時

場 所：秋田市役所本庁舎5階 第2委員会室

委員の定数：13人

出席委員：13人

## 1 開会

## 2 議事

### (1) 委員長および副委員長の選任について

委員長、副委員長を選出した。

### (2) 令和2年度の主な取組について

資料1をもとに、事務局から説明を行った。

委員長	議事の(2)「令和2年度の主な取組について」に関して、ご意見やご質問等はないか。
	質問なし

### (3) 令和元年度エイジフレンドリーパートナーの取組状況について

資料2をもとに、事務局から説明を行った。

委員長	議事の(3)「令和元年度エイジフレンドリーパートナーの取組状況について」に関して、ご意見やご質問等はないか。
委員長	4「高齢者の積極的雇用」について、エイジフレンドリーパートナーで、50事業者が雇用している。この数字は、秋田市もしくは秋田県全体の雇用状況と比較してどうなのか。積極的にエイジフレンドリーパートナーが雇用しているのか、全体的に多いのか、傾向が分かるようであれば、伺いたい。
事務局	県全体の状況はこちらで把握していない。また、エイジフレンドリーパートナーの中でもこの取組を全ての事業者が行っているわけではないため、比較するのは難しい。
委員長	事業者が意識的に雇用も考えているということによろしいか。
事務局	取組内容として掲げている事業者が多い取り組みになっている。
委員長	【その他】で説明があったベンチの設置について、住民からの要望を受けて、エイジフレンドリーパートナーが設置したとあった。住民からの要望は、どのような経緯で出されたものか、伺いたい。

事務局	平成30年度にエイジフレンドリーシティ推進戦略づくり地区別ワークショップを中央地区で開催した。その時に参加いただいた地域住民から、ベンチがあると外出時に途中で休憩もできるのでありがたいという要望があり、これを受けて事業者がベンチを設置するに至った。
委員長	ワークショップでということだが、要望を自由に出せる機会があれば良いのではないか。自由に誰でも、「ここにベンチがあつたらいい」と要望を出すことができ、それに応じられるエイジフレンドリーパートナーがいる、というようなことが可能であれば良いと思う。
委員長	他になければ、議事(3)を終了する。

#### (4) 第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の進捗状況について

資料3および4をもとに事務局から説明を行った。

委員長	議事の(4)「第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の進捗状況について」に関して、ご意見やご質問等はないか。
委員	資料3の2ページに記載がある、令和2年度の目標値について、例えば基本目標2の「高齢者コインバス資格証明書交付率」でいうと、今年度の目標値が64%とあり、昨年度までの各年度の実績値推移では既に超える数値になっているが、どういうことか。
事務局	第2次エイジフレンドリーシティ行動計画において、それぞれの事業の目標値は設定されていない。今回は、各事業実績を照会する際に、目標値を設定している事業については、記載いただいている。 令和2年度目標値は、今年度設定した目標値ではなく、過去に設定し、今年度までに達成する目標値となっている。
委員	基本目標4の「高齢者向け健康運動教室の参加者数」や6の「傾聴ボランティア活動者数」については、もう既に令和2年度の目標値を上回っており、実績として良い結果が出ていると理解して良いか。
事務局	そのとおりである。
委員	資料3の2ページの基本目標7の「秋田市ホームページの高齢者関連ページへのアクセス件数」について、平成29年度で78,276件が、30年度で10,788件、元年度で12,920件、と記載されており、平成29年度からの落差が大きい。これは集計のやり方が変わったということか。
事務局	平成30年度に秋田市のホームページが改訂され、別のかたちになったため、件数が落ちているように見えるが、アクセス数のカウントの仕方が、前よりもページを絞り込んだ件数になったと認識している。
委員長	例えば区別の仕方などで、何か支障をきたすことはないか。
事務局	実績として並べた時に、大幅に減少してみえるため、支障があるかもしれないが、今後の数値の取り方に変更はないので、今後の件数の伸びを見ていくしかないと考えている。
委員長	他になければ、議事(4)を終了する。

## (5) 秋田市エイジフレンドリーシティ市民意識調査の実施について

資料5、6、7をもとに事務局から説明を行った。

委 員 長	議事の(5)「秋田市エイジフレンドリーシティ市民意識調査の実施について」に関して、ご意見やご質問等はないか。
委 員	調査の対象について、平成27年度に実施した際と同様に、20歳以上の市民3,000人を対象に、無作為抽出の抽出方法ということだが、年代別に人数を抽出していたのか、年齢関係なく無作為という捉え方で抽出した対象での意識調査をされたのか。
事 務 局	前回抽出する際、情報統計課に確認をしたところ、30万人いる秋田市では、無作為抽出でも満遍なく各年代毎に公平に抽出されるという状況になる。
委 員	秋田市では高齢者の割合が多いため、この抽出に当たっても、高齢者のウエイトが高い方が、日々の生活の中で実際に高齢者自身がどういう意識を持っているか、より多面的に捉えることが出来るのではないかと思った。そのため、各年代のウエイトがほぼ一律というより、例えば60歳以上を多くするというようにした方がいいのではないかと感じたので、それについて伺いたい。
事 務 局	前回調査時も委員の皆さまから、65歳以上の方を多めに調査した方がよいのではないかという意見をいただいていた。しかし、エイジフレンドリーの取組自体が高齢者だけではなく、あらゆる世代にとってやさしい施策であることから、いろいろな世代の方々からの意見を伺いたいという趣旨がある。 前回の回答者のうち、65歳以上の割合が45.9%であり、高齢者の回答割合が高いということもあり、今回の調査に関しても前回と同様に、65歳以上の方に限定することなくあらゆる世代からのご意見を伺いたい。
委 員	一般的にはそうだと思うが、設問の内容からすると、もう少し高齢者のウエイトは検討してもよいのではないか。
委 員	あくまで統計分析なので、統計を取ることによってその年代の傾向がわかるということであれば、その年代だけ多くしておかなければその傾向が見えないということではないはずである。そのため、統計分析とするならば、このやり方がかまわないと思う。
委 員	関連する話になるが、前回、世代毎の回収率というのに差はなかったか。 我々は卒業研究ということで市民の方に調査お願いすることあるが、若い世代の方の回収率が非常に低い。そうすると、同じように均等にとると回収率に差があり、意図したとおりに返って来ない可能性はないのかというのは、気になる場所であった。
事 務 局	市役所内でのいろいろなアンケート調査でも、若い世代からの回答率が少し低いので、その点は検討する必要があると考えている。実際のところ、我々は統計に長けている訳ではないため、ご助言いただけ

ると大変ありがたい。例えば、20代以上のウエイトを増やすなど、そういったことでよろしいものか。

委員 ひとつのやり方としては、前回の回収率から今回の回収率をある程度推計して調査する方法で、先程の委員の話とは逆になるが、若い人に多く聞くことになる。もうひとつは、最近インターネットでネット上で回答してもらうものが多く、若い人は紙や郵送での回答はしないが、ネットであればスマホやパソコンで簡単に作業ができるため回答する、という動向がある。ただし、高齢者の方は逆に郵送の方が信頼が出来て、しっかり回答した気がするというところがあり、なかなか難しいところだと思う。可能であれば、上手く併用して、どちらでも好きな方で答えられるということが出来れば、もう少し回収率は上がると思う。では、具体的にどうしたらよいかと言われると、それは難しいというのが正直なところである。

事務局 企画調整課などでも大規模なアンケート調査を実施しており、集計方法や回答率を上げるための施策もいろいろ考えていると思うので、参考にしながら、もう少し検討したいと思う。

委員 資料6の2ページの間8について、選択を3つから2つにしたということだが、これは3つのままでいいと思う。これは、専門の先生に相談して作られているものか。

事務局 この設問については、今回付け加えたものである。選択を3つまでとしているので、1つしか選ばない方もいると思うが、そのあたりの日本語の捉え方はそれぞれだと思う。3つまでと言われると、3つ選ばなければならないと思う方もおり、そうなった時に、実際にはそれほど使っていない電車を選ぶケースも考えられることから、2つにした方がいいのではないかと思ったところだが、いかがなものか。

委員 それは、考えたうえで質問に答えるのかどうかで違ってくると思う。その辺りは、いかがでしょうか。

委員 私個人としては、3つにしないのなら、1つでよいと思う。

委員 多分、ここで知りたいのは、車を使っているのか、公共交通機関を使っているのかで、その2択かと思う。選択を1つにして、どちらかに付けてもらう方が、その方が普段車を使われる方なのか、そうじゃないのかがはっきり分かる。ただ、実は「送迎」というのもある。自分では運転しないが、家族に乗せてもらう方も多くいると聞く。この場合どこに付けるのか、そこは考えてもよいかと思う。

委員 この設問は、先程の委員が言われたとおり、公共交通機関なのか、自家用車なのかをまず知りたいということでよいか。

事務局 そのとおりである。

委員 そうであれば、選択は1つの方がよいかもしいない。

事務局 では、1つを選択していただくようにする。

委員 資料6の間13で、回答が5段階に分かれているが、不満の方を強く知りたいのか、それとも安心・満足・便利の方を知りたいのか。選択肢の順番を左側から「安心・満足・便利」とし、最後に右側に「不

安・不満・不便」というように変えた方がよいのではないか。回答する際、人間は1に付けやすいところがある。それから、「どちらともいえない」というのを無くした方がいいかもしれない。4段階にしてどちらかといえば不満の方が多いのか、安心の方が多いのかという選択にする。「どちらともいえない」はデータとしては非常にわかりづらいというか、はっきりしない。4段階にするというのは、いかがでしょうか。

委員 これは好き好きで、「どちらともいえない」を入れる、入れないどちらの場合もある。入れなければ、はっきりとどちらかに分かれるが、逆に付けづらい場合もあると思う。「どちらともいえない」の選択肢があると、それを多く選択しがちだが、その中で、「便利」や「満足」に付けた人は、明確に満足や便利と感じてそこに付けたと読み取れるのではないかと思う。また、「どちらともいえない」の選択肢がないと、不便ではないが、満足とも言いがたい、まあ、不便というよりは満足か、というような消極的な回答も一緒に満足になってしまうのではないかと思う。なかなか難しいところであり、どちらかが良いというのは言いがたいところではある。

委員 回答の選択肢のところを、「やや」ではなく、「どちらかといえば安心」、「どちらかといえば不満」、とした方がいいかもしれない。どちらかといえば安心なのか、どちらかといえば不満なのか、ってというような選択肢で4段階にするというやり方もあるのではないか。

事務局 選択肢「やや」の部分で「どちらかといえば」にすることか。何を聞きたいのかというところにもよるが、「どちらかといえば安心」や「どちらかといえば不満」というようにする。

事務局 ちなみに、前回の調査では、安心、やや安心、どちらともいえない、という項目になっていた。前回と比較をする場合、やはり同じ項目にしないと比較が難しいかと思う。

委員 そうであれば、そのままよい。

委員 資料6の10ページの間38だが、自分で回答してみた時に、5の働いていないを選択し、その次の間40へ進むと、仕事をしたい理由は何ですか、という設問になった。仕事をしたい理由と突然尋ねる設問になっているが、「する（したい）理由」というようにしたらどうか。働いていないので、回答として、「したいと思わない」にしようと思ったが、する理由だったら回答の選択肢がいろいろあると思った。また、選択する数がいくつなのか入れた方がいいのではないかと思う。

事務局 この設問については、「仕事をする（したい）理由」に変更する。また、選択する数については、今回設定したものであるため、統計上複数回答がいいのか、そういったことも含めて東海大学の後藤先生に相談したいと思う。アンケート調査については、後日改めて、皆さまにお送りするようにしたい。この間40については、一旦、検討させていただきたい。

委員 資料6の2ページ、公共交通のところの間10について、選択肢の

4に「低床バスがあり便利」とあるが、路線本数の選択肢と同様に、「低床バスがなくて不便」という選択肢も可能であれば、入れていただきたい。公共交通関係の委員会の委員もさせていただいているが、そこでも低床バスの話は話題になり、なくて困っているという意見の方が結構多いため、可能であれば入れていただければと思う。もうひとつとして、高齢者との接点、特に、高齢者以外の方に対する設問になるのかと思うが、日常的に高齢者の方と、どれ位接点があるかということを探る質問を加えられないか。家族については、家族構成である程度把握できるかと思うが、家族以外で日常的に高齢者の方と色々話すことがある、一緒に何かすることがある人と、そうでない人では意識が違うのではないかと思う。何かそのようなことがわかるような設問があるといいと思う。

事務局  
委員長

検討させていただく。  
他になければ、議事(5)を終了する。

## (6) その他

委員

今、新型コロナウイルスの感染拡大などの状況の中で、高齢者が集まる機会を設けられず、ようやく再開しようという地区も出て来たところである。密にならない、ソーシャルディスタンスという距離を保つなどの話があるが、再開に当たっての対応について、社会福祉協議会に問い合わせをいただくことがある。県外に行った、またはそういった方と接触したということがなければ、それほど気を遣わなくてもいいのではないかという話もしているが、高齢者の場合は耳が遠いので、距離を離すとなかなかコミュニケーションもとれず、サロンをやる意味がないのではないかという話も出ている。このような状況の中でのエイジフレンドリーシティの進め方について、こういった方向で進めたいというところがあれば、教えていただきたい。

事務局

実際に、ワークショップが開催出来なかったなど、影響がでている。高齢者の方を対象としたものだとすると、例えば、Web会議というのも難しいところがあったりする。ただ、エイジフレンドリーパートナーである、株式会社ALL-Aが取り組んでいるものとして、高齢者の方に事前にWeb会議の使い方を説明すると、比較的出来るというところがあるので、対面で交流しなくても、こういった手法があるということ、できるだけ多くの方に知っていただくことは、新しい生活様式の中では必要ではないかと思う。高齢者だから出来ない、と最初から決めつけるのではなく、そういったことも出来るとまずは知っていただきたい。新たな事業で、ポータルサイトも構築するので、そういったものを使いながら、高齢者の方にもどんどん利用していただけるような環境を整えることが、これからのエイジフレンドリーの取組として、必要であると考えている。

委員	長	確かに今年は、ちょっと異例の状況で、様々なところで制限があり、高齢の方もいろいろ関わりが少なくなっていると思う。是非工夫していただければと思う。
委員		ALL-Aに関し、今までアドバイスいただいていた先生が、東京大学から東海大学に変わられたようだが、構成については問題ないのか。
事務局		東海大学に行かれたが、東京大学にも所属されており、引き続き、ALL-Aと東京大学が協力していく予定である。
委員		エイジフレンドリーシティの取組は、非常に広範囲に渡っており、積極的に高齢者が活躍できるまちづくりを目指すという点で感銘も受けた。ただ、障がい者として積極的に関わるには、その前に、社会環境が整っていないと、一緒に行動したりは無理なのではないかと感じた。エイジフレンドリーシティ行動計画のパンフレットなどを拝見し、障がい者という言葉があちこちに出てくると、やはり一緒にやるべきと思うが、あまりにも動きにくい社会で、どうやって関わっていけばよいか戸惑っているのが現状である。今後ご指導いただければありがたい。
委員	長	事務局から何かあるか。
事務局		前任者の委員からも、障がい者協会の立場として、いろいろご助言いただいた。エイジフレンドリー指標においても、例えば、バリアフリー化率を向上させるための指標を設定したりと、障がいのある方にとってもやさしいまちづくりというものを目指している。障がい者協会のお立場として、引き続きご助言いただきたい。
委員	長	エイジフレンドリーは、高齢者にやさしいまちづくりという日本語になっており、高齢者に特化しているように見えるが、様々な方が社会参加が出来るようにというのが趣旨であると思うので、積極的に発言いただければ、大変ありがたいと思う。
委員		障がい者協会の会員も、現在はほとんどが60歳以上、みんな高齢者であることに間違いはない。社会環境も以前に比べると、だいぶよくなったが、車イスや視覚、聴覚障がいといった方達が多く、行動を起こすとなると、非常に行動しにくい。そういう状態であるということをご理解いただき、ご指導いただければありがたい。
委員	長	他に意見がないようなので、事務局からその他として何かないか。
事務局		事務局から以下の事務連絡を行った。 ・ 次回の推進委員会の開催時期について

#### 4 閉会